

## 衝突安全性能評価の試験方法の変更について

衝突安全性能評価の試験方法について、以下の変更を実施することとしたい。

- (1) 試験時車両の燃料タンクに注入する液体について【フルラップ、オフセット、側突】  
燃料タンクに注入する液体を水に変更する。

理由：現在、軽油又は溶剤という代替液体を燃料タンクに注入しているが、ガソリンに比べれば危険性は低いものの、火災及び有毒性の危険があることから安全な水に変更する。

- (2) 評価に使用していない計測箇所及び計測装置の取り付けを整理【フルラップ、オフセット、側突】

車室内とドア回りの変形量の測定について、評価に使用していない箇所は計測しないこととする。ただし、申請者の希望により委託実施することもできることとする。

理由：従来は、試験や評価方法の改善等に備えて計測していたが、当分の間、必要となることは見込まれないためコスト削減の観点から中止する。

- (3) ステアリング・リムの接触を確認するためにダミー胸部に貼付している感圧紙について【フルラップ、オフセット】

ダミーの胸部に感圧紙を貼付するのは、ステアリング角度（ステアリングコラムの水平面に対する角度）が $32^{\circ}$  超えの車両のみを対象とする。

理由：ステアリング・リムがダミーの非計測部分に接触しているかどうかを確認するために胸部に貼り付けることとしている感圧紙について、今年度を実施した全ての車両でステアリング・リムへの接触が見られなかった。ステアリング角度が大きくなるほど接触の懸念が高くなるため、今年度評価を実施した車両の最大のステアリング角度 $32^{\circ}$  までは感圧紙での接触確認を実施しない。

- (4) ダミーの検定方法について【後突】

ダミーの検定方法を一部追加する。

理由：国連の技術規則において、後突時の頸部保護に関する基準で使用することとしているダミー（BioRID II）の検定方法が追加されるため。